

「診作くんマイスター」がバージョンアップ ～エクセルファイルでのデータ取り込み機能を強化～

分析器との互換性が向上

「診作くんマイスター」が上市されて1年以上が経過し、これまでに100本以上が出荷された（2009年3月現在）。そのなかで、エクセルファイルでの分析データの取り込みに対する要望が多かったため、本年7月から機能を強化し、バージョン2として供給することになった。

従来の「診作くんマイスター」では、全農型土壌分析器「Z A-Ⅱ」や携帯・設置併用型土壌分析器「Z A パーソナル」から分析データを取り込むことができたが、そのほかの分析器とは互換性がなく、分析データを取り込むことはむずかしかった。

最近、分析器の進歩は目覚しく、分析データはエクセルファイルもしくはCSVファイルとして出力できるものが多い。例えば、全農が全国9ヵ所に開設した広域土壌分析センターに主力分析器として設置した、高速土壌養分自動分析装置「SNA-24i」も、エクセルファイルでデータを出力できる。

JAでの処方箋作成が可能に

現在、土壌分析は分析センターで行うのが一般的になりつつある。しかしながら、分析センターで処方箋を一括作成し送付すると、決められた肥料の種類だけの計算結果しか出ず、生産者が希望する肥料などの計算ができなかった。

そこで、生産者に最も近いJAなどで処方箋作成ができるようにするためには、JAと県本部、分析センターとの分析データのやり取りは、エクセルを介して行えることが望ましい（図-1）。今回バージョンアップした「診作くんマイスターVer.2」を使えば、分析データをわ

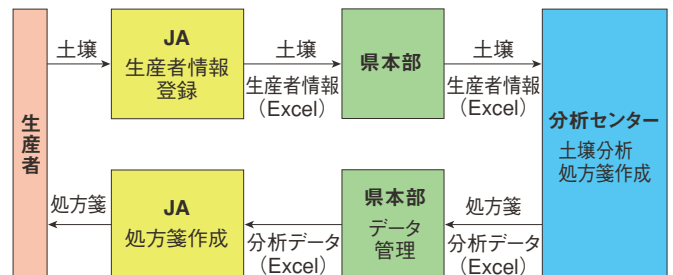


図-1 JA・県本部・分析センター間での分析データのフロー

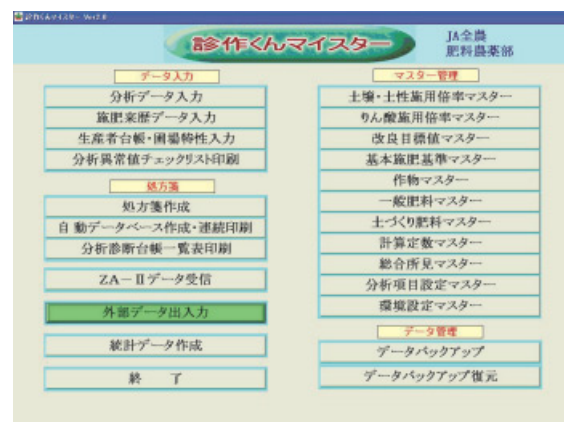


図-2 「診作くんマイスターVer.2」のトップ画面

ざわざ手入力する必要がなく、簡単にエクセルファイルからデータを取り込めるので、手軽に処方箋を作成することが可能である（図-2）。「診作くんマイスターVer.2」を利用して土壌診断を各JAで行うことができれば、営農指導員の土壌診断に対する意識も高まり、ゆくゆくは生産者と一緒になって処方箋を作成することも期待できる。

なお、分析データ以外にも、生産者台帳、生産者圃場台帳、一般肥料名と成分も、エクセルファイルから取り込むことができる。

【全農 営農・技術センター 肥料研究室 山下耕生】